

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900623		
法人名	医療法人 恵心会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	旭川市錦町19丁目2166-149		
自己評価作成日	令和元年10月6日	評価結果市町村受理日	令和元年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900623-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人にある家庭医療専門の「北星ファミリークリニック」との密な連携により、看取りまでを柔軟に対応出来、御利用者、ご家族が安心できるサポート体制がある。又、人事考課・各種研修・各委員会を通し、職員一人一人にモチベーション・質を高めることに務めている。

当事業所は平成12年11月に開設した1ユニット(定員9名)のグループホームで、バス通りに面し、鉄筋コンクリート造り2階建ての壁面に大きく事業所名が掲げられた解りやすい建物である。近隣には道北で最大級の面積を誇るショッピングセンターや消防、JR駅、郵便局、銀行、小・中・高等学校、公園等があり、散歩・買い物等の日常生活や交通環境に恵まれている。近くには母体法人が運営する家庭医療を専門としたクリニックがあり、24時間体制の支援と定期的な往診があり、利用者や家族の安心に繋がっている。道路を挟んで関連のグループホームと老人保健施設やケアハウスが立ち並ぶ総合福祉施設となっている。利用者、家族等の希望や意向を踏まえ、医師及び看護師と連携しながら重度化や終末期の医療体制と看取りのケア計画であるターミナルケアを実践している。また、各委員会(学習委員会、感染症予防委員会、事故防止委員会)が中心となって、認知症の基礎講座や虐待・身体拘束廃止、感染症予防対策等の内部研修会を開催してスキルアップに取り組んでいる。イベントでは夏祭りや焼肉パーティー、お月見や敬老会等を開催して利用者に飽きの来ないイベントを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	○		○	○
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を書いた物を常に携帯し、運営理念に添ったケアを心がけている。朝礼で運営理念の唱和を行っている。	総合福祉施設全体の施策である会社理念が書かれている。運営理念等記載された備忘録を携帯して理念に添ったケアをし、朝礼での唱和を行っている。	母体法人の理念(会社理念)そのままではなく、地域密着型サービスの意義・役割が理解され、地域に適合した事業所独自の理念を職員皆で考え、作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営理念の中に地域とのかかわりを大切にすることをあげている。又、運営推進会議に町内会長に出席してもらっている。	町内会に加入し、町内の運動会を見学したり、事業所の行事に地域住民の参加を呼びかける等交流を深めるよう努めている。地域の高校のインターンシップに協力して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施していない。今後、運営推進会議等を活用し理解を深めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営に関する報告、サービス提供内容、意見交換、研修の場として実施している。	概ね2ヶ月に1回(4・7・8・9月)会議を開催し、市職員、地域包括支援センター職員、町内会長、家族等が参加し、事業報告や運営上の事等を話し合っており、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市への管理上の報告をしたり介護申請時などに出向いて市との連携を行い助言を頂いている。又、運営推進会議に参加して頂いている。	市担当者とは、運営について報告したり、介護保険の更新や生活保護手続き等で助言を得ている。運営推進会議では、介護保険課や地域包括支援センターの職員に、指導・助言を得、認知症サポート養成講座やステップアップ講習の研修等に参加して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを行っている。身体拘束廃止の手引きの掌握	月1回行われるスタッフミーティングや年3回の内部研修で、身体拘束等の適正化のための指針を基に具体的な行為を正しく理解するよう全員で取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティング等で理解を深めている他、身体拘束廃止委員会にて研修を行っている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング等で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問な点がないか確認しながら利用時の説明を行い、納得した上で捺印してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見を言いやすいよう、意見箱を設置している。家族の来所時に意見を伺い職員間の話し合いで検討し、運営に反映させている。	玄関に苦情相談受付窓口を掲示するとともに、意見箱を置いている。家族の面会や行事の際に、職員が家族の意見や要望を傾聴し、対処できるところは話し合いを行い、職員間で共有し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフミーティングや朝礼時に意見や提案を話せる環境を作るよう配慮している。	月末のスタッフミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見等を協議して運営に反映できるよう努めている。改善事項があれば提案を受け管理者の会議で検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人目標を立て向上心を持つよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に極力参加出来るよう努めている。又、新人職員に対しては育成スケジュールを配布、効率よく覚えてもらえるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのネットワークとして日本認知症グループホーム協会に入会し、多くの情報を得ている他、地域包括支援センター主催のイベントにて同業者との交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族に要望等、意向を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には必ず家族の希望、思いを伺い安心していただけるようなサービスを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活暦、既往歴等把握し必要としているサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者との良い関係を作れるよう心がけ実施している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の近況の報告をし、心身の状態変化があれば速やかに連絡を取り、対応の相談、経過報告等行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人など気軽に来訪できる環境づくりに努めている。	馴染みの店での買い物や、友人・知人が来訪した時は馴染みの関係が継続するよう支援している。家族の協力を得ながら、利用者の友人訪問など積極的に馴染みの人や場所が継続できる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関わり一緒になって交流できる機会を作り、入居者同士が過ごせる配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に立ち寄って行けるよう声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように可能な限り努力している。困難な場合は家族とも話し合い把握に努めている。	入居時に利用者・家族からの聞き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握し、日常のしぐさ・動き・会話から、好みの食べ物や飲み物、暮らし方等様々な思いや意向を聞き、職員でを共有して、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など家族から情報をいただき、会話の中からどんな生活をしてきたか聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状態を把握し、自分で出来ることはやってもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員1人1ひとり担当を持ちカンファレンスを行いケアプランを作成している。又、家族への説明時に、加えて欲しい項目等ないか確認している。	利用者、家族の意向を反映させ、職員の気づき等も参考に会議で意見や状況等を集約し、3ヶ月毎に介護計画を作成し、家族に説明して確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは職員がいつでも見る事が出来るように共有の場所にある。また、定期的カンファレンスを行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせてスーパーへの買い物やバーベキューなど実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人内医院の月2回の往診で安心した暮らしが出来るように支援している。また、散歩や買い物・手伝い等で暮らしに楽しみが持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡や相談を随時行い、往診、受診適切、迅速に出来るように支援している。	入所時に、本人・家族の希望を聞いた上で母体法人が運営する24時間対応の家庭医療を専門としたクリニックと個人で契約を結び、かかりつけ医としている。医師は月2回往診、看護師も月2回来訪して健康管理の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の体制を実施し、日頃の関わりの中での情報や気づきを伝え、健康管理に対する助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	北星ファミリークリニックを通じ、医療機関との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を図り、面談等を行った上で、看取りケア計画を作成する。	入所時に利用者、家族と話し合い細かな意向等を聞いた上で、事業所でできることを十分に説明し同意を得ている。協力医療機関と連携して重度化や終末期の看取り計画を立てながらターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで技術や情報など共有できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、近隣の老健から協力を得る事が出来る。	消防署の協力の下、年2回の防災避難訓練を実施している。運営推進会議に合わせた訓練で家族等が参加し、系列の老健施設の協力を得ながら実施する計画を立てている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の誇りやプライバシーに配慮した声かけやケアを行っている。	利用者それぞれに合わせて、誇りやプライバシーを損ねない声かけ、対応を心がけている。入室時の声かけ、トイレ誘導や入浴時など、誇りやプライバシーを損ねないように利用者に優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を尊重し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースに合わせるよう、職員の配置や業務時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服装等、出来るように見守りしている。訪問理美容サービスを利用し出来る限り本人の希望に添えるようにしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力を把握し、おつゆを注いでもらっている。	利用者の好みや体調に合わせた食事を支援し、音楽を聴きながら職員と一緒に楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量表を用いて摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を用い、毎食後の口腔ケアの確認をしている。自ら行えない利用者には一部手伝い支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは様子を観察しながら声をかけ、トイレへの誘導を行い、自立排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活、水分摂取、運動などに気を配り便秘の予防をしている。便秘時には協力医療機関と連携を取り、指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援をしている。	週2回(基本火及び金曜日)の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援をしている。また、入浴が苦手な利用者には個々に合わせ柔軟な対応をしている。昨年、脱衣所と浴室の改修を行い、脱衣所からスロープで入浴ができるようになってきている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り内服の支援を行っている。薬の内容や副作用等、すぐに確認できるよう薬のリストを職員共有の場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回必ず何らかの行事を行っている他、誕生日の日に誕生日会をしている。又、日課としての体操を行っている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など戸外に出かけられるよう支援している。また、本人・家族の希望を把握し、家族と出かけられるよう支援している。	買い物や散歩等、利用者の希望に添った外出の支援をしている。事業所敷地内の庭では焼肉パーティを行ったり、お月見や敬老会などに参加する等、催しを通して外気に接しられる様外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力・了解を頂きながらお金の所持、使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望があればいつでも可能。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、明るさ、飾り物等で、生活感・季節感がわかるよう環境づくりに配慮している。	玄関の広いロビーにはソファが置かれ、2階へは1人用の昇降機を設置。共用の居間は採光も良く室温も快適に保たれ、壁には紅葉の飾り付けとハロウィンが飾られて、居心地良く過ごせるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子があり利用者同士会話されたり、テレビを視聴されたり利用者が好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れたなじみの物を配置し家庭に近い環境づくりに努めている。	居室入り口には折り紙の目印が表札代わりに飾られ、採光も十分で室温も快適で、テレビ、ラジオ等使い慣れた馴染みの物や地方の土産の置物を持ち込み、自宅にいる様な居心地良く暮らせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に飾りなど目印を付け、自分の部屋だと認識できるよう配慮している。		